

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスNOAH小久保		
○保護者評価実施期間	2024年1月1日		～ 2025年 2月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年 1月 15日		～ 2025年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・里山を通じて日常とは違った雰囲気を感じられる。	・準備された遊びではなくないところから遊びをみつける、時には他児を巻き込んでいくなど、そこに繋がる援助をさりげなく行ったり、見守ったりする。 ・「火は木を入れるだけでは燃え続けにくい」「山の傾斜で細い木に捕まっても折れてしまう」など里山ならではのトラップに対し好きにやってみて経験から答え合わせをする。(考え続けること) ※大きな事故に繋がると予想できる行動については制止する。	・体験できるプログラムを増やしていき、自ら興味をもてるよう環境設定を見直していく。 ・スタッフの遊びのバリエーションを増やしていく。(視点、関わり方の工夫など)
2	・外へ出ていくことが多く、戸外活動が豊富。	・車に乗って出かけるときには「お願いします」や「ありがとうございます」を言えるよう他スタッフが手本となり発信していく。 ・戸外にでると他に利用している人がいたり、遊びへの障害が不規則にあり、その変化に合わせて遊んでいけるよう見守ったり、援助したりする。	・外出先での動きがルーティーン化されて子どもたちがスムーズに動きやすく良い部分ではあるが、活動自体が同じことの繰り返しにならないよう支援内容に沿った活動の変化を加えていく。 ・車で出掛けることが多いので時々実施している公共交通機関の利用や徒歩での移動も増やしていく。
3	・日々のMTで子どもたちの様子を伝え合い、支援内容・関わり方について共有できている。	・毎日のMTで前日の振り返り・支援内容の確認を行うことでスタッフ間での意思疎通を行い、子どもたちと関わっている。 ・楽しいが原動力の子どもたちにとって楽しく来所できるようなプログラムを組んでいる。	・ともに楽しく活動できるよう今以上にプログラムを考えていく。 ・スタッフのスキルアップに繋がる話し合いや研修を実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者の交流の場や避難訓練など実施はしているが情報が周知しきれていないこと。	・毎月配布している予定表への記載が不十分。 ・LINEによる一斉案内で完結してしまっている。 ・保護者との直接のやり取りが不定期。	・予定表を見やすくする。 ・保護者との関わりをより密に行いイベント案内を口頭でも伝えられるよう機会をつくっていく。 ・イベントによっては、どんな内容だったか全体に向けて発信していく。
2	・地域の交流、事業所外の子供達との交流が少ない。	・普段から地域への交流が少ない。 ・他事業所のスタッフ間の関わりで終わってしまっている。 ・学校での他児童との関わりで完結してしまっている。	・普段から行っている他事業所との交流を利用児童との関わりへ広げていく。 ・地域活動への参加も検討する。
3	・必要に応じての家族支援やご相談を受け付けているが頻度になると少ない。	・支援計画更新のタイミングや、その都度必要に応じての対応のみになってしまっている。 ・認知度や普段の状況からご相談を受ける窓口が狭い。 ・保護者との情報交換の場が少ない。	・直接関わる機会の多い送迎時になるべくコミュニケーションをとっていく。 ・普段の連絡帳・LINEでのやりとりから相談しやすい関係を築いていき、窓口を広げていく。 ・懇談会、保護者も参加できる研修の開催を検討する。